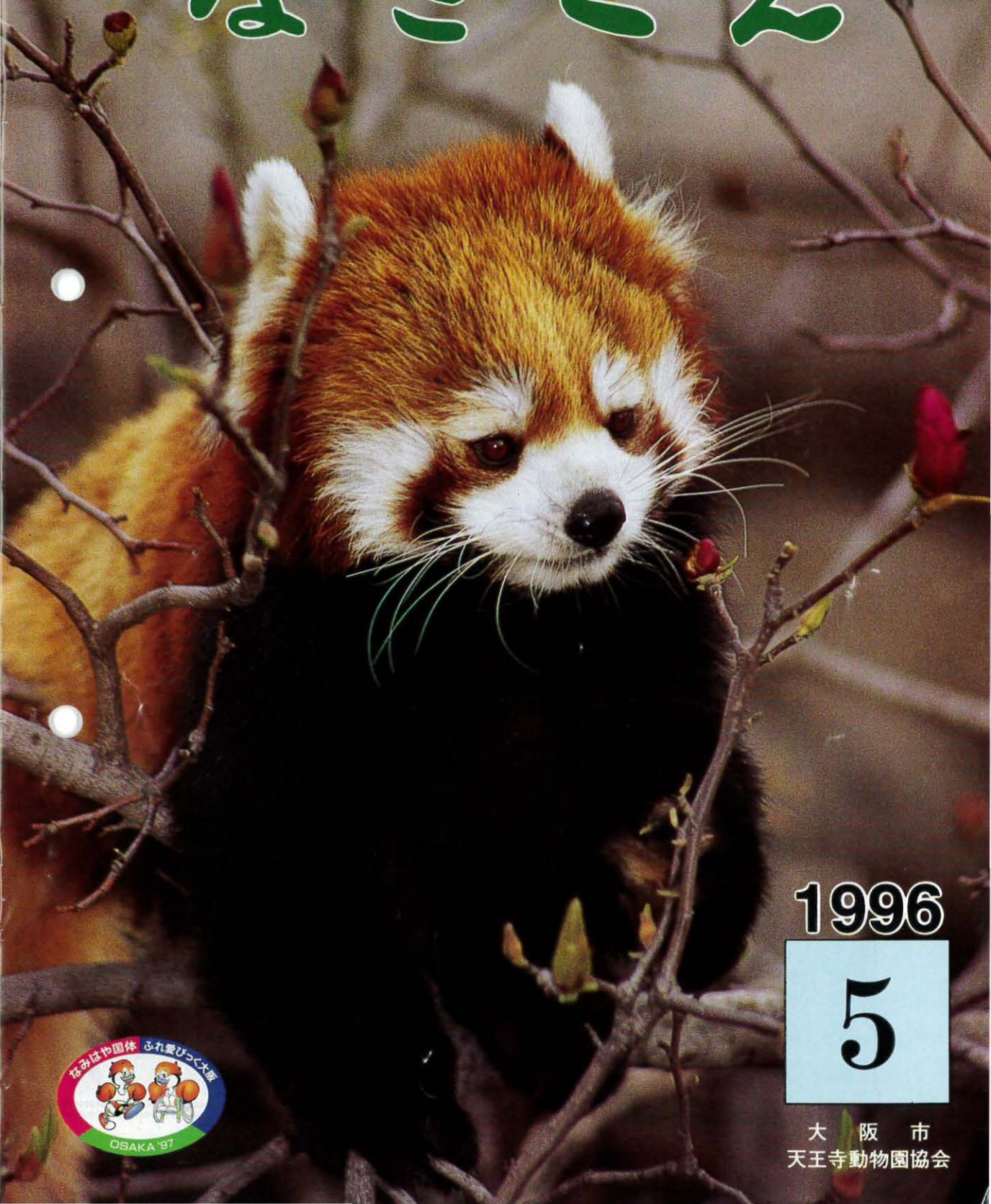




なきごえ



1996

5



大阪市
天王寺動物園協会



(撮影：小林 崇宏)

- 2 — New Face ハイロギツネですこんには (小林 崇宏)
- 3 — 動物と私 『動物は必需品』 (永地 博正)
カバーウォッチングシセンレッサーパンダ (小林 崇宏)
- 4 — オオサンショウウオの現状 (大沼 弘一)
- 6 — 動物園と遺伝子 (高見 一利)
- 8 — グラフZOO (土谷 正道)
- 10 — 公園花だより ⑩ (仁田原 洋)
- 11 — ZOO DIARY

カバーウォッチング

シセンレッサーパンダ
ネコ目 パンダ科
Ailurus fulgens styani
アライグマに似て、スタイル、
表情、動作どれをとっても愛嬌
があり人気者です。竹や笹の葉
が好物で、これを手でたくり
寄せ、器用に木に登ります。
(撮影：小林 崇宏)

||||| 動物と私 |||||

『動物は必需品』

動 物って、私にとっては必需品です。
たとえば朝、目がさめて、すぐ傍に動物が
いて、手がふわふわの毛にさわると、生きている
実感がある。少し大げさかな？ では、安心感が
ある。

私 は山口県のいわゆる田舎に生まれ、蛇や蛙
と共に育ち、子犬を拾ってきては納屋でこつ
そり育てたり、魚を取ってきて、自分で池を作つ
て飼ったり、近所の家には牛や馬がいて一緒にレ
ンゲ畑を走ったり、それは楽しい少年時代を過ご
しました。家では、ウサギやニワトリも飼って
いて、もちろんどの家でも同じように、色ん
な動物を飼っていて、それらは労働力や食料にな
るものもありました。お米や野菜と一緒に、生活
の中になくはならないものとして、並列に組み
込まれていた訳ですね。ところが大人になるにつ
れ、自分中心の生活になり、他の動物や植物の事
など忘れ、自分自身の興味で埋まってしまうとい
うそんな20代を過ごし、30代になって、東京から
故郷山口に舞戻ってきたわけです。ここで私は新
しい仕事、陶芸(萩焼)を始めることにしました。

生 活も変わり、田舎に帰った嬉しさに、ニワ
トリ、ウサギ、猫を飼いました。ニワトリ
はチャボでしたが、私が外から帰ると、頭を地に
すりつけて迎えてくれますし、ウサギはクワン
とお話をするようにもなりました。

ところがある日、チャボの一家は、まず雄の
「シロ」が家族を守るため野犬の犠牲になり、続



永地 博正 さん
(陶芸家)

いて子供達はイタチの犠牲になり、ウサギはシツ
ポだけ残して、キツネの犠牲になりました。もつ
ともナマズの「コータロー」は、私の犠牲になり、
酒の肴として食卓にのぼりましたが、家内や子供
達の冷たい目におどろかされて、少しだけのみこ
むのがやつとの思いでした。結局残ったのはキジ
猫の「ミーニャ」。彼女はかなりの高齢まで、その
野性的な性格で自由奔放に生き、我が家の自慢で
したが、突然いなくなり、帰らぬ猫となりました。

その後、友人から柴犬を譲り受けましたがその
可愛さに、家内などは子犬をおぶって歩く有様。
おまけに嵐の夜、怖がるので、家上げてからと
いうもの、とうとう夜は一緒に布団で寝ることに
なっていました。

彼にとっては、良かったのが、悪かったのが非
行少年さながら、気に入らないことがあると飼
い主にもキバを向けるワガママ息子です。

今 年の二月、彼(犬のハヤト)といつものコー
スを散歩中、杉林の中に若いキツネが死ん
でいるのを見つけました。これが時々、遠くで見
かけていたキツネかと思うと少し興奮しました。
それからは毎日、目が離せません。寒い季節な
ので腐敗がなく、刃物のような美しい表情はしば
らく続きましたが、少しずつ目に曇りが出て来まし
たので、埋葬することにしました。

最 近、墓地の横にある池にカモの一族が来て
います。もつと山寄りには、さらに大きい
池もあり、ピープル犬が5匹もいる家がそばにあ
つて、ワンワンと吠えたりもするのですが、そんな
賑やかな所を選んでいるのです。近づいても逃げ
もせず、丁度いい距離を楽しんでいるみたいで、
むしろ、いつもは近くまでやってくる青サギの方
がバサバサと大きい翼を拡げて飛び去ってしま
います。私とハヤトはなるべく邪魔しない様、そ
つと通りすぎるのですが、うまくゆくと、ホッとし
ながら、とても満たされた気持ちになります。

夕 焼の空、ノスリやタカシルエットを見
たり、イノシシの親子がボタンの花の下を芋
掘りに出かけたり、タヌキの子供とバツリ会
つて、こちらの方がたじろいだり…。もしこの世に
人間以外の生きものが、いなかったらと思うと、
動物達がどんなに大切な存在なのか、やっぱりど
う考えても、動物は、私にとって必需品だと思
います。

(ながとち ひろまさ)



ハイロギツネですこんには ネコ目 イヌ科

昨年の12月に来園し、健康チェックやワ
クチン接種を済ませた後、今年の3月3日か
ら展示しています。これでキツネの仲間は6
種類となりました。

オオサンショウウオの現状

大沼弘一

財団法人
兵庫県自然保護協会
神戸支部

西 日本に世界で最も大きい両生類のオオサンショウウオが生息している事はほとんどのみなさんがご存じであると思いますが、どこでどのように生活しているか等の生態的な事についてはあまり知られていないようです。そこで私たちが調査、観察してきた結果から断片的ですがオオサンショウウオ生息の様子を少しご紹介させていただきたいと思えます。

よ くオオサンショウウオは奥深い山奥の谷にのみ棲むと思われがちなのですが、実際は里山の農村地域を蛇行しながら緩やかに流れる河川にも多く見られます。現在、岐阜以西の本州と九州北部の一部地域に自然分布していることが知られており、大阪府では北部を流れる神崎川水系の上流部等にも生息が見られます。南部地域は今のところ私たちは調査していないので、確実な生息河川を把握していませんが、既存の文献に記録がありおそらく現在も生息しているのではないかと考えています。しかし近年は河川改修等で多くの河川において生息に適さなくなっているのも現状です。

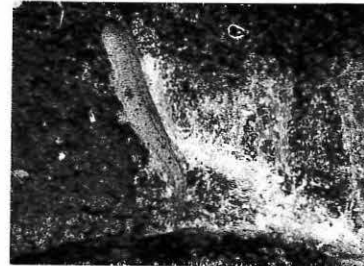
オ サンショウウオは夜行性の動物で、昼間は岸辺の横穴や転石の下等に潜んでいるためにほとんど姿を見ることはできません。主に日没後から活動し、冬期も冬眠することなく活発ではありませんが活動しています。またこの時期は隠れ場所をあまり離れないので発見場所に隠れ場所があると考えてよいでしょう。

おとなしい動物で、夜間に川の瀬付近にあらわれ水底で下流を向きじっとしているのがよく観察できます。これは狩をする行動の一つのようです。狩といっても泳ぎまわっている魚を素早く捕まえることはできないらしく、時折鼻先にあたるほどに近づいた魚を大きな口をあげ吸い込むように捕らえます。このときの動作だけはじつに素早いのです。またサワガニが好物であるといわれていますが、野外ではサワガニを捕食するところはほとんど観察できません。転

石の下などに隠れているときに現れたものを食べているのでしょう。とにかく鼻先にきたものはくわえるようで、流れてきた落ち葉なども一応くわえます。ですがこういったものはすぐにはなしてしまいます。

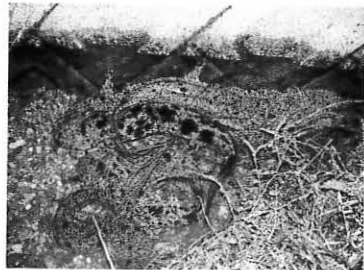
一晩にどれだけのものを食べているのかはわかりませんが、みたところあまり多くはたべていないというより捕食できないようです。兵庫県の羽束川で何らかの原因で口の右半分に傷を負った個体がいるのですが、1992年に重量2kgあったものが95年には1.5kgになっており、ほとんど捕食できていないと考えられます。このことから低代謝で生命力はかなり強いことがうかがえます。

オ サンショウウオは定住性が強いようで、普段は同じところに隠れていることが多いのですが繁殖期の



上流へ上しようとする個体

近づくと7月下旬頃からは、産卵をするためにより上流へ向かって遡上を始めます。魚類のようにすばやく流れを遡っていくことはできず、じつにゆっくりとしています。そのときの水量等に左右されますが、一晩に数メートルしか進めないこともあります。滝などの傾斜がきつくと上れない時は、一度陸に上がって迂回をします。しかし近年は河川改修等で堰堤が作られ、コンクリートで護岸がされてしまうとヤモリの様に上れないため行き場を失った個体が堰堤の下に集まってしまうのが見られます。これはオオサンショウウオにとって致命的です。



繁殖期、えん堤を上れず、その下に集まった9頭

る隙間があればいいのですが、コンクリートでかためられているのでそのような隙間はありません。やむなくそこで産卵を始めることもあります。産み出された卵塊はすべて流されてしまいます。流された卵塊は陸に押し上げられたり、他の生物に食べられる事になりまず育たないと考えられます。しかし下流に巣穴を捜して下っていく個体も

います。自然状態の巣穴は伏流水が流れてできたものが多く、直接本流の流れの影響を受けにくい岸辺に入口があり、奥行きは2mを越えるものもあります。

産卵期

ある8月下旬から9月上旬は同時に台風のシーズンでもあり、大きな増水がくりかえしおこることで、このような巣穴が必要なのでしょう。良い条件にある巣穴は毎年産卵が確認できます。

巣穴は特定のオスが占有し、産卵が終わると、他の個体を追い出し一定期間卵塊を保護します。約40日でふ化し、ふ化した幼生は巣穴にとどまり、翌年の2月中旬頃に巣穴から出始めて分散をしていきます。このころには巣穴の入り口付近に、外鰓のある黒っぽい5cm未満の幼生を水底にたまる落ち葉の下などに多く見ることができます。この



滝をう回するため道路上に出てしまった個体

後の様子はあまりわかっていないのですが、水棲昆虫等と同じ環境で生活し、それらを捕食しているでしょう。



ふ化後約4か月の幼生。まだエラが見られる。

夏期には河川から水をひく農業用水路でも見ることができず、最近ほとんど確認できず、地元の人に尋ねても昔は多くいたが最近は見なくなったと言われる事がほとんどです。河川改修で巣穴の条件が悪くなった事や用水路のコンクリート化に大きな原因があるでしょう。

様々な困難を乗り越えた幼生は約5年で変態し、変態後も他の両生類のように陸上には上がりません。また栄養状態により体長にかなりの差がでるため大きさで年齢は判断できません。寿命はながく、はっきりした事はわかりませんが、人と同じ位、またはそれ以上と考えられます。

産卵期を終えた成体はそのほとんどが、冬期間に過ごしたところまで、徐々にもどって行きます。移動距離はまちまちで、能勢町を流れる天王川では巣穴まで300mの距離を行き来する個体もいれば、1.2kmも遡上した個体もいます。しかし後者は途中堰堤に遡上を阻まれたために下ってしまったもので、堰堤がなければ移動距離はもっと進んで

いたでしょう。

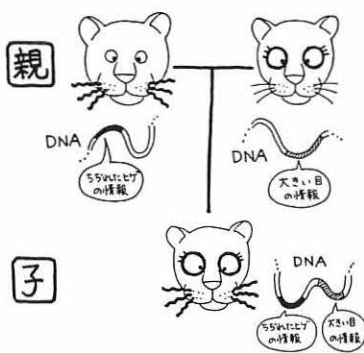
オ サンショウウオは国の特別天然記念物であり保護されていると多くの方たちは思ってもらえると思いますが、生息地を含めて保護されているところは現在でもごく一部地域に限られています。オオサンショウウオに触れることも文化庁の許可なしではできないのですが、生息環境を奪うおそれのある河川改修は安易におこなわれています。最近になってようやくオオサンショウウオの生息に配慮がなされはじめていますが、短期間の事前調査で確認されなければ以前とおなじコンクリートの単調な河川に変えられてしまうことがまだまだ多く見られます。かなり個体数の見られる河川でも夜間一定区間を見て1頭も見あたらないことがあります。少し時間をおいて同じ区間を見ると、5頭、6頭と見られることもあります。相手は生物ですのでこちらの都合では動いてくれません。またある一定区間に生息が見られなくとも、繁殖期の遡上ルートとして重要な区間である可能性もあります。オオサンショウウオは河川生態系の頂点に位置し、オオサンショウウオが棲むには餌となる他の水棲生物も多く生息できなければなりません。西日本においては、一部自然要因で生息していない地域もあると考えられますが、ほとんどの河川に生息すると思われ、すべての河川において生態系に配慮された工法がとられ、できる限り自然状態で残される事が望まれます。個体数が少なく希少な生物であるために特別天然記念物に指定されているのではなく、この国の風土が育んだ代表される生物として指定されています。最近個体数が増えたと聞くことがありますが、現状をみると河川改修等で川辺の植物が切り払われ川を見やすくなったのと、隠れ場所の多くが壊され1ヶ所に追い込まれているためそう見えるのでしょう。

現状では各種堰堤によって河川が分断され、生息はできても繁殖が難しくなっている河川が多くなっている様に思えます。確認されるのはそのほとんどが成体であり、成体は長く生きるため、まだまだ生息していると思っても繁殖ができていなければ突然姿を消すこととなります。能勢町の天王川でも現在道路工事に伴う河川改修でオオサンショウウオを中心とした生物に配慮した工法が行われています。うまく機能すればいいのですが、まだ思考の段階であり、今後のモニタリングの結果を待たなければなりません。オオサンショウウオは人よりはるかに長い歴史をもっており、人の手で希少な生物にしてはならないと思います。出会う機会は少ないですが、西日本の里山では身近な生物として長くつき合いたいものです。

(おおぬま ひろかず)

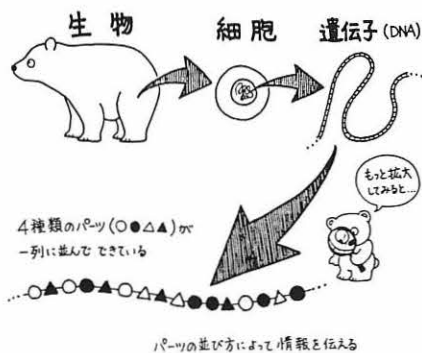
動物園と遺伝子

「遺伝子」。最近よく耳にする言葉だと思いませんか。ところで遺伝子とは何でしょう。子が親に似るといふ現象は「遺伝」です。人それぞれに眉毛が太い、お酒が全く飲めないなどのように生まれつき持っている特徴があります。ある特徴が遺伝する場合には、その情報が親から子に伝えられる必要があります。そのような情報を記号化したものが「遺伝子」です。眉毛が太いという情報を持った遺伝子が親から子に渡され、その情報にしたがって子の体が作られていくため親に似た太い眉毛になるのです。生物を形作る基本単位



は細胞ですが、ほとんどの細胞には遺伝子が含まれています。一部のウィルスを除いて、遺伝子の本体はDNAです。と言うことはDNAに遺伝情報が含まれていることとなります。それではDNAはなにか紙のようなもので、文字でも書いてあるのでしょうか。実はDNAというのは形のある物質(分子)です。4種類のパーツが無数に1列に並んで引っ付いたものなのです。この4種類のパーツの並び方(順序)が記号になっているのです。

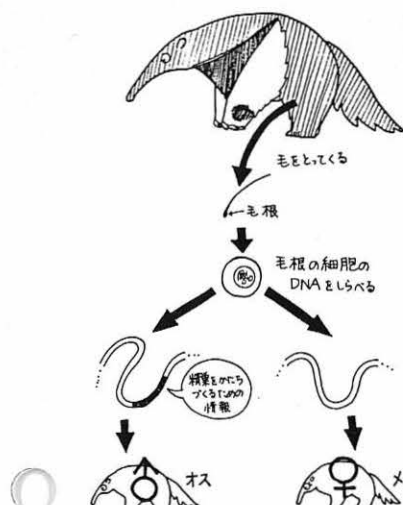
近頃このパーツの並び方の研究が大変な勢いで進みつつあり、いろいろな動物の遺伝情報がわかってきています。もちろん人間や実験動物、家畜などと比べれば、野生動物における研究の進み方というものは比べものにならないほど遅れています。人間ではごく常識



とみなされている遺伝情報でも野生動物では何一つわかっていないと言うことも多いのです。しかし最近の研究により動物園で必要とされている、野生動物についての遺伝情報も少しずつ明らかにされてきました。そのいくつかをここでご紹介しましょう。

動物園で飼育されている動物は哺乳類、鳥類、は虫類、両生類、魚類など多種多様です。哺乳類のみについて考えても大きさや形、生活環境など非常にバラエティーに富んでいます。当然のようにそれらの動物を飼育管理する上で、人間の場合では考えられないような問題も生じてきます。

まず、外から見ただけでは性別の確認が難しい動物種があるのです。鳥類や虫類、両生類の多くの種、さらには哺乳類の一部の種などがそうです。触れることができない、または見たり触れたりしてもオスかメスか区別がつかない。そんな場合どうすればよいでしょう。答は簡単、お腹を開いてみればいいのです。しかし実際には生きている動物に対してそのようなことはできません。そんな問題に対しても解決の糸口が見えてきました。遺伝子を調べるといふ方法です。性別を確認したい動物の細胞からDNAを取り出して、その遺伝情報(4種類のパーツの並び方)を調べ、それがオスの遺伝子かメスの遺伝子かを調べるのです。最近の研究で哺乳類については精巣(オスが持っている)を形作るための遺伝情報がほぼ明らかにされてきました。この情報を利用します。つまりある動物の遺伝子の中に精巣の情報が見つければオス、見つからなければメス、と判定するのです。ほとんどの哺乳動物においてこの方法が利用できるということも確認されつつあります。同様に鳥類についてはメスにしか存在しない遺伝情報が近年発見されたところ。これを用いて性別の判定を行う試みが始まっています。は虫類、両生類などについてはまだまだこれからの研究を待たなければならないようです。実は、これまでも細胞レベルでの性別の判定は行われていました。多くの種で、細胞の中の染色体という部品の形を調べれば、オスとメスの区別がつかうのです。しかしその操作は煩雑で、数日を要するものです。DNAによる方法は、より簡単な操作で数時間のうちに判定結果を得ることが出来ます。しかも感度が非常に高いため体毛1本、場合によっては数個の細胞をサンプルに用いて実施できます。実際



には近づくことや麻酔をかけることが危険である動物、あるいはすでに死んでしまった動物の剥製などに対して、わずかな体毛を採取できれば判定が可能です。つまり、これまでの染色体による方法よりもより実用的であるといえます。

また、別な遺伝情報の利用法として個体識別や親子判定の技術が動物園で利用され始めています。人間も含めて動物はそれぞれ個々でみんな違った外見、特徴を持っています。しかし悲しいことに人間にはその違いをつかみ取ることが難しい種も多くあります。そのような場合、みんな同じ顔に見えるし名前を呼んでも返事をしてくれない訳ですから、はたしてどの個体が「太郎君」で、どの個体が「花子さん」なのか決めようがありません。さらに、様々な理由で、ある動物がどの親から生まれたのかわからないと言ったこともよくあります。生まれたばかりの赤ん坊でも人間と違って親の手助けを全く借りなくても生きていけるという種もたくさんありますし、本当の親ではないけれども子孫の面倒を見ている場合も無いわけではありません。子が完全に成長してしまっている場合、親子の見極めはさらに難しくなります。このような場合の個体の識別、特定や、親子の判定にも遺伝情報が役に立ちます。遺伝情報はそれぞれの個体ごとに必ず違いがあります。しかもその情報は一生を通して変化しません。従って遺伝情報を読みとり記録しておけば、人間で言う指紋のように一生その個体を識別する手段として利用できるのです。このように遺伝子の個体ごとの違いを検出する実験方法にDNAフィンガープリント法と呼ばれるものがあります。フィンガープリントとは英語で指紋の意味です。同様の方法で親子判定も可能です。原則として動物の遺伝子はその両親から授かるものです。ですからその動物の遺伝情報は、ある部分では父親に非常に似ていますし、それ以外の部分では母親に非常に似ています。従って親子判定を行いたい動物に対して前述のフィンガープリント法を行うと、親子であれば父親や母親に似た遺伝子部位が子に確認できますし、全く血縁がなければ遺伝子の似ている部位があまり見られないということになります。最近ではフィンガープリント法よりもさら

に感度の高い方法が開発されてきています。

後にも述べますが現在の動物園は貴重な動物を繁殖目的で飼育している訳ですから、それらの動物の性別の確認、個体の識別、親子の判定は大変重要な情報です。これらの基礎的な情報なしには繁殖計画の策定はもとより、つがいの形成すら簡単にはできません。従ってこれまでにご紹介した方法は、動物園で飼育管理されている野生動物に対してまさに必要とされているものなのです。



遺伝情報は指紋と同様のもので、
・一生かわらない
・一頭ずつ違う

これらの他にも動物園の動物を対象とした様々な遺伝子解明の研究が行われています。種ごとの遺伝子の違いを比較して、違いの多少により遺伝的に近縁な種を明らかにする研究も進んでいます。また同様に違いを読みとることで、進化の過程で近縁な二つの種がどれくらい昔に分化したかということも検討することが可能です。さらに、複数の亜種に分類される動物は、亜種の間での遺伝的な違いについても調べられてきています。これらの研究成果は動物の分類学に大きく貢献しています。

最近環境問題が注目を浴びるようになり、自然破壊による動物種の減少が問題視されています。そのような中で動物園の働きも大きく変わりつつあります。珍しい動物を集めて展示し、お客さんに楽しんでもらうというそれだけの役割は終わりました。今の動物園の働きは「楽しんでもらう」ことで動物を理解することから始まり「環境教育」と「種の保存」であると言われていきます。本来の生息地で生きながらえることが難しくなってきた動物を何とか動物園で増やしていこう、滅びれば復活できないDNAを保存しようというのが大きな役割の一つになっているのです。今は残念ながらまだまだその役割を十分に果たすに至っていません。様々な問題を一つずつ解決して理想的な動物園に近づいていかなければなりません。遺伝子研究の成果は今後さらに動物園における技術的問題の大きな突破口のひとつになる可能性を秘めています。

(飼育課：高見一利)

だれの躡かな？

ひづめ

蹄を持つ動物は大きく偶蹄類と奇蹄類に分けられます。写真の蹄を見て動物の種類が解るかな！

(撮影：土谷 正道)

グラフZOO

偶蹄類

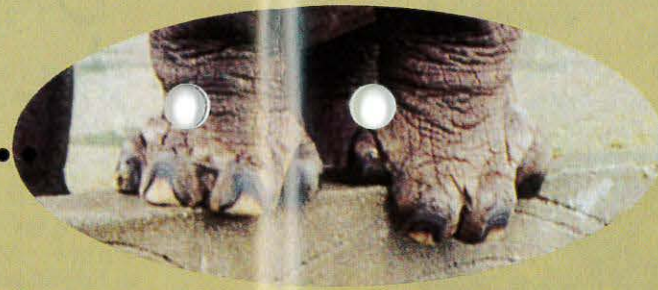
1



2



4



5



3

奇蹄類

6



7

8



回答

1. 乾燥した山岳地帯の急峻な岩場も平気で歩きます。バーバリシープ
2. この蹄で大きな体を支え、草原を歩いたり走ったりします。アミメキリン
3. 足の裏は平たいので砂漠を歩くのに適しています。フタコブラクダ
4. 体の大きさの割には小さな足。指の間には小さな水かきがあります。カバ
5. 奈良公園で見かける動物の足。これで日本の森を歩きます。ニホンジカ
6. 水辺に近い藪や森林に住み、この足で湿地を平気で歩きます。ブラジルバク
7. 陸上ではゾウ、カバに次いで重い動物。この足で走ると迫力があります。クロサイ
8. サラブレッドではありませんが同じ仲間。草原を疾駆します。グラントシマウマ

公園花だより 16

『八十八夜の別れ霜』、これは立春から数えて八十八夜(5月上旬)になると、霜による植物の被害の心配がなくなるという昔からの言い伝えですが、同時に5月は青々とした深緑が萌える季節でもあります。

今年も4月29日から5月5日まで天王寺公園の常設展示場で、春の山野草展を開催しました。この山野草展では、7~8月頃に高山帯で清楚な花を咲かせる高山植物がいち早く花はこころび入園者を魅了しました。

天王寺公園のゲートを通ってすぐのメイン花壇である沈床花壇ではパンジーが入園者の目を楽しませていましたが、ゴールデンウィークを控え4月下旬にペチュニアと入れ替え、今はこの花が皆さんを魅了しています。

バラのアーチでは木の幹がすっかり大きくなり枝は昨年にもまして長く伸び、蕾も大きくふくらんできています。連休明け頃に開き始め、初夏の気温の上昇とともに中旬には一斉に咲き満開になることでしょう。まさに花のトンネルとなるはずです。その後、下旬にはほぼ咲き終わり、養分を使いつくしているので十分な施肥と灌水等の管理を行います。木を回復させて芽を出させ、今から来年の花の準備をするのです。来年の準備といえば、花の観賞時期には薬剤散布を控えていますのでこの時は病害虫にやられやすく、花期が終わると直ちに散布を行います。花が鮮やかに咲き誇ってこそ日頃の苦勞が報われるというもので、薬剤散布も重要な作業の一つです。もちろん他の公園の花の出来具合も調査し参考としています。

水上ステージから天王寺美術館方面をつなぐ陸橋のスロープでは、キリシマツツジの花が満開となっている事でしょう。実はこのスロープの斜面



咲きそろいはじめたキリシマツツジ

では一昨年の猛烈な日照りのため植物が枯れ込んでしまい、今年の早々にキリシマツツジを補植したところなのです。植込

んだばかりですので今年の開花はもう一歩及ばずという出来栄えといったところでしょう。それでも白、赤、ピンクの花は入園者の目を楽しませてくれています。来年はきっとキリシマツツジ特有の鮮やかで、絨毯を敷き詰めたような花を咲かせてくれることと思います。

慶沢園では、「ひとにやさしいまちづくり」の一環として、車椅子を利用されている方でも楽に日本式庭園が観賞出来るように観覧通路を改修しました。公園として景観を損わないように通り易い工夫をしたわけです。ここでは、四阿(あずまや)前のカキツバタ(アヤメ科)に始まり、正面河原横の黄花ショウブ、その後ろは池の各所に植込んだ9種200株の江戸系や肥後など各系の花ショウブが咲き始めることでしょう。竜頭石付近では、竜の体の部分はサツキで形どられ、花が咲いて赤く染ったように彩られます。



河底池の周囲では平戸ツツジが満開で、池の東側にある水生花園入り口付近ではシャガが白い花を咲かせています。また水生花園でも黄花ショウブが植え付けられ今を盛りに咲いていますし、これが終わりを告げると30種1,000株の江戸系や肥後など各系の花ショウブが咲き始めることでしょう。

方、動物園では昨年の3月に新しい展示施設である爬虫類生態館がオープンしています。実はこの入り口付近には日本の森を模した木々や植物を植えており、最近消えつつある自然林の一部でも再現出来ればと思っています。昨年植え付けたばかりで、これからの管理が大変ですが、



ユキノシタの可憐な花

(管理課:仁田原 洋)

4月にはアセビやヒメシャガ、ナルコユリの白い清楚な花が咲きました。5月にはヤマツツジ、ユキノシタ、が咲くことと思います。ここでは花を観賞すると同時に色々な木々や草本類が繁茂する植物相が観賞出来るようにしたいと考えています。

3月1日 “鳥の楽園”で展示しているシュバシコウのうち、6羽をネオパーク沖縄に、2羽を京都市動物園に贈りました。この鳥は別名ヨーロッパコウノトリと呼ばれ、赤ちゃんを運んで来る鳥としてヨーロッパでは大切にされています。



- 3/2. キツネ類3種健康診断を行いました。
- 3/3. ヤギの双子が生まれました。
- 3/4. カナダヅルが今季初めて産卵しました。ヒツジが1頭生まれました。ニホンコウノトリが今季4卵目を産卵しました。
- 3/6. ハシボソガラスを1羽保護しました。
- 3/7. カナダヅルが2卵目を産卵しました。

3月8日 今季生まれたトカラヤギ、ヤギおよびヒツジの個体識別をするため、耳標を付けました。



- 3/9. ドリルの出産準備のため、寝室にテレビカメラを設置しました。
- 3/11. 爬虫類生態館“アイファー”で展示中のヒョウモンガメが産卵しました。
- 3/12. エミューが今季2卵目を産卵しました。

3月13日 ボーガンの矢が体に刺さったカルガモを保護しました。レントゲン検査の結果、矢は皮下の浅いところを貫通しただけだったので矢を抜き取り、化膿どめの注射と補液を行いました。



- 3/14. ハヤブサを1羽保護しました。
- 3/16. チュウゴクオオカミの健康診断を行いました。

キジバトを1羽保護しました。3/17. “小鳥舎”のアオメキバタンの足環がくい込んでいたので、足環をはずし治療をしました。

3月18日 ホツキョクグマのメス“ユキコ”と昨年宝塚動物園から入



今月もおもしろ情報満載



園したオス“ネボスケ”の同居を始めました。気性が激しい動物なので、事前に鎮静剤を与えました。発情期であったのと薬の効果とで同居は非常にスムーズにいきました。関係者の心配をよそにすぐに交尾をしました。

- 3/19. ワシミミズクが交尾しました。
- 3/20. 爬虫類館のマツカサトカゲにダニが寄生したので、治療を始めました。

3月21日 エミューが今季4卵目を産卵しました。



この鳥は、「走鳥類」の仲間です。オーストラリアに生息しています。抱卵はオスの役目です。

- ヤギが下痢をしたので、治療を始めました。
- 3/23. アミメキリンが交尾しました。
- 3/24. 小鳥舎のカケスが元気がなくなったので、治療を始めました。
- 3/25. フクロウを1羽保護しました。
- 3/26. キジ舎のジュケイが今季初めて産卵しましたが、残念ながら破卵してしまいました。
- 3/27. キジバトを1羽保護しました。
- 3/28. オジロワシが元気がなくなったので、治療を始めました。
- 3/29. ドバトを1羽保護しました。

お知らせ

●「動物のお話」
日時: 5月19日(日) 午後1時~
場所: レクチャールーム

愛ある暮らし、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

動物園で暮らす様々な生き物達、自然の中ではどんな暮らしをしているのか？ 動物園での世話の仕方は？ 仲間はず？ など、写真と精密イラストをまじえ紹介します。

＜暮らしとかいかたシリーズ＜既刊本＞＞

B5変型判・オールカラー

むし 暮らしとかいかた

野山でみかける身近な昆虫たち 250種を紹介。

ちいさないきもの 暮らしとかいかた

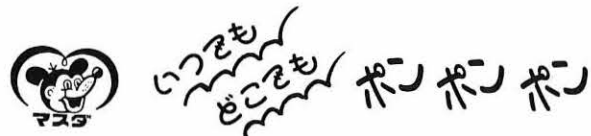
昆虫以外の小さな生き物を320種紹介。

お求めは、お近くの書店で。

☆ ぴかりのくに株式会社 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表



マスターのポップコーン



〈営業品目〉 製造機械・保温機 他
生コーン・袋詰ポップコーン・原材料一式

(株)増田食品 〒561 大阪府豊中市穂積1-10-30
TEL (06) 865-0165

新・きれいな色

FUJICOLOR SUPER G ACE 400

新・きれいな色



カメラの大林

桜橋本店 ☎341-8091
阪急三番街店 ☎372-5031

動物の生態を描く唯一の文学雑誌

動物文学

昭和九年平岩米吉によって創刊

本誌は生態研究を基礎として動物文献を収集整理するとともに、シートン、ザルテン、バイコフ等の諸作家を紹介した本邦動物文学の母胎です。

〈研究・考証・記録・随筆・翻訳等を掲載〉

会費/年1,500円(切手72円・呈既刊号目次)

動物文学会

〒152 東京都目黒区自由が丘3-12-2 電話03(3717)1659・振替・東京5-9800

新作

貸出用ビデオ「楽しい天王寺動物園」

19分(10本常備)

- 対象/保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し郵送料510円は必要)
- 申込先/当協会まで手紙かハガキでお申込下さい。

コアラテレホンカード(限定販売)
好評発売中 ¥800(50度用)

天王寺動物園の本

入園の記念・手引に……



オールカラー

500円

園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

ああ、男のやすらぎ。ジョージア

ひと息入れよ。ジョージアで、

Enjoy **GEORGIA**

鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円

有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号
 飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!

園内、主要動物舎
 30数ヶ所にあります

関西特機株式会社
 電話 06-762-2333
 1回 30円

動物園内での
お食事、ご休憩は

動物園内.....
中央売店
 TEL 06-771-0973

お食事・飲み物・おみやげ 動物園内
南園売店 TEL 06-771-7110

LOTTE

サクッとスリムなプレッツェルを、
 こんがり焼き上げたあとに
 チョコをたっぷり入れました。
 「トッポ」のおいしさの人気は、
 ここがポイントです。

トッポ



雪印 つぶよみ フルーツ ヨーグルト



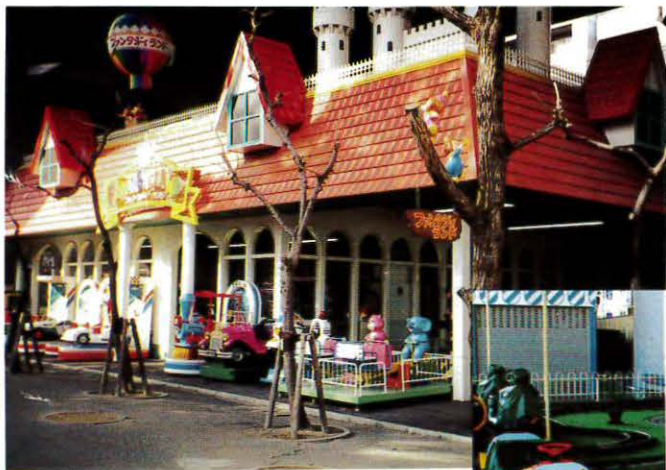
●ライチミックス ●ストロベリー ●アップル ●ピーチ ●フルーツミックス

おいしさは、産地のよさです。

台湾のライチ、フィリピンのナタ・デ・ココとパイナップル——●ライチミックス
 国産の女峰、オレゴンのトーテム、中南米のチャンドラー、季節の旬を追って——●ストロベリー
 日本の富士、中国・韓国の国光。それぞれおいしい季節の——●アップル
 桃といえば中国です。そして韓国。旬に一括収穫した白桃で——●ピーチ
 アプリコット、メロン、アップル、パイナップル、ミカン。果物狂の——●フルーツミックス

お待たせ
新発売

希望小売価格・税抜 **各100円**



◎園内3ヶ所(南園高架下・北園中央デッキ北側・北園高架下)に各種のりものがあります。

久竹娛樂株式会社
TEL(06)541-3938(代)



一日
愉快地
たのしめる

なきごえ

1996年5月10日発行(毎月10日発行)第32巻 第5号(通巻369号)

編集/大阪市天王寺動物園事務所

発行人/大阪市天王寺動物園協会 伊東重朗

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価150円(送料共)1年継続(12部)1,650円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74

電話 大阪 (06)771-0201

振替口座 00930-2-37823

編集委員

樽本 勲/馬詰好文/増野良敏/中川哲男/吉本昌俊/長谷川敏昭/落合正彦/宮下 実/長瀬健二郎/榊原安昭/森本委利
 高橋雅之/中上正幸/堀内智生/小林崇宏/竹田正人/大野尊信/野口秀高/早川 篤/土谷正道/村上勇一/仁田原洋